

2 章 坂のまち 今熊野の 防災上の課題

しかし、災害時を考えると、
今から対策すべき課題があります。

独居の高齢者の増加

高齢化が進む今熊野学区では、高齢者の独り住まいの方も珍しくなく、災害時の避難や安否確認が十分に行われるか不安です。

▶環境・くらし P7

住んでいない家の発生

所有者が高齢で家を離れたり、他地域の家族に相続されると、普段人が住まない家が増えていきます。

▶基本方針：いえ P25

いえ

空き家は地域の問題へ

定期的な管理がされなくなると、家は傷みやすく、近隣住民にとって、日常や災害時の不安につながります。

▶基本方針：いえ P25

木造住宅が密集

長屋状の木造住宅が立ち並ぶ風景は趣きがありますが、地震時の建物の倒壊、火災時の類焼などの防災上の課題もあります。

また、路地奥の建物は建替えができない場合もあり、空き家として放置される可能性が高くなります。

▶基本方針：いえ P25

▶基本方針：みち P27

密集

京都女子大学

密集

元今熊野
小学校

みち

細く長い路地

路地のある風景を残すためにも、災害時に路地奥から住民が安全に避難できる対策が必要です。

▶基本方針：みち P27

蛇行した主要道路

滑石街道をはじめ、学区内を東西に横断する主要道路は、傾斜や蛇行がある上、幅 4m未滿の箇所も部分的にあり、災害時の避難や救助を考えると防災上道路拡幅も必要な状況です。

▶基本方針：みち P27

コロナ禍

コロナ禍を踏まえたこれからの防災

コロナ禍を踏まえると、互いに助け合う「共助」での対応が難しく、自分で自分の身を守る「自助」を求められる場面も多くなることが考えられます。▶基本方針：ひと P23

地域活動の担い手不足

まとまりのある地域がある一方、年々地域の担い手が不足し、将来の地域運営が深刻です。

▶基本方針：ひと P23

ひと

集まる機会の減少

少子高齢化や生活スタイルの変化などにより「地域内で集まる機会が減った」との声もあり、日頃の交流が減ることにより、災害時に近隣同士で情報伝達できるか、不安が残ります。

▶基本方針：ひと P23

全体把握の難しさ

学区域が広く、町割も複雑であるため、災害時に学区全体の被害状況や、住民の安否の把握が難しい環境です。

山裾

鳥辺野陵

南北の避難
が難しい

階段状の路地も

避難所への避難
が難しい場合も

高低差があり
避難が容易でない

緑豊かで静かな住環境が地域の大きな魅力ですが、学区域が広い上に坂が多く、特に高齢者にとって避難が難しい地域があります。

▶基本方針：まち P29

まち

地震、土砂災害、 それぞれに不安がある

密集のエリアでは地震や火災が、山裾のエリアでは土砂災害と、エリアによって不安な災害の種類が多様です。

▶災害想定 P11

▶基本方針：まち P29

▶各町の地域特性 P33

2-1 坂のまち 今熊野の 災害想定

多様な地域特性が魅力である今熊野学区において、災害を想定した場合の地域の状況について整理しています。

地形想定

震度想定 震度 **6~7**
土砂災害
警戒区域箇所のある町 **18** 町

花折断層地震が発生した際、今熊野学区内の震度想定は主に震度 6 強ですが、建物が密集するエリアは、震度 7 が想定されています。また、土砂災害の警戒区域箇所がある町は、28 町中 16 町です。このことから、複数の災害を想定する必要があります。

▶各町の地域特性 P33

【詳細】 災害想定や正確な区域については「京都市ハザードマップ」で確認できます。

細街路

幅 4m未満の道 **110** 本以上
そのうち
幅 1.8m未満の道 **50** 本以上

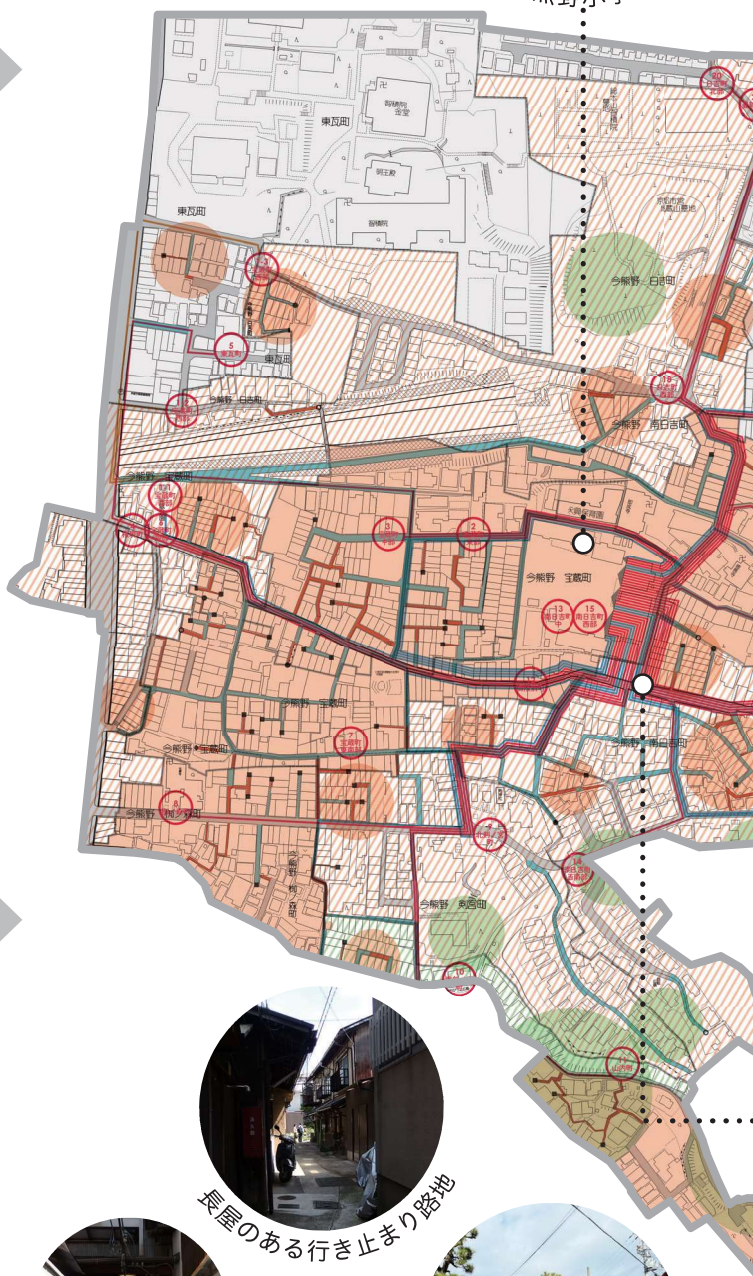
地域の成り立ちであったように、陶業の窯や工房等ができた中で路地状の道がつくられていきました。現在では、今熊野の歴史や地域性を物語る、特徴的な景観要素となっています。

一方で、地震や火災等の災害を想定すると、特に木造の建物が密集した幅の狭い路地は、避難時の不安があります。

※平成 30 年度からの今熊野学区での防災まちあるき等の結果をもとにしており、その後の建て替え等により、一部変更がある可能性があります。



元今熊野小学校



長屋のある行き止まり路地



トンネル路地



元今熊野小学校通

指定緊急避難所 指定避難所

避難所①

元今熊野小学校 **717**人

避難所②

京都女子大学 **1,193**人

避難所は、災害から命を守る場所、一時的に避難生活を営む場所としてあらかじめ指定されています。避難状況を把握するため、東山泉小中学校や、大谷中学・高等学校など、近隣の避難所とも連携を図る予定です。

災害時には安全な場所へ避難しましょう。

※大谷中学・高等学校、東山泉小中学校西学舎、東学舎は、現在、一橋学区が運営する避難所です。
※日吉ヶ丘高等学校は、現在、月輪学区が運営する避難所です。

※「京都市指定避難所一覧 令和2年12月31日時点」をもとに作成しています。

【詳細】「避難所・広域避難場所・避難救助拠点マップ」や、京都市防災ポータルサイト「防災危機管理情報館」で公開している避難所マップで確認できます。

また、今熊野学区の発災後の避難については、「防災行動マニュアル」「避難所運営マニュアル」で確認できます。

避難経路

東西方向で利用の多い避難経路
滑石街道

南北方向で利用の多い避難経路
元今熊野小学校通

※防災まちづくりでは、元今熊野小学校へ続く南北の道を「元今熊野小学校通」と通称します。

「坂が緩やか」「通学路で使っていた」など慣れた道が利用されています。災害時に住民の皆さんが避難する道は、特に避難の妨げとならないような事前の防災対策が必要です。

※令和元年度の今熊野学区総合防災訓練で各町が選択した避難ルートをもとに作成しています。

— 第一避難経路 / — 第二避難経路

